

【報告事項】

1 警察署長会議の開催について

（総務部）

警察本部から「令和6年福岡県警察運営指針等について意思統一を図り、県民の安全・安心の確保のために県警察が一丸となって職務に邁進することを目的として、1月25日に警察署長会議を開催する。なお、年初に警察署長等が一堂に会して開催するのは、令和2年以来4年ぶりである。」旨の報告があった。

2 令和5年中の治安概況について

（警務部）

警察本部から「県内の治安情勢の指標の一つとなる刑法犯認知件数は平成14年をピークとして減少傾向にあったものの、令和4年から増加に転じ、令和5年も増加傾向が続いている。「暴力団の壊滅」については、暴力団構成員の検挙人員は前年比で減少しているものの、長期未解決であった道仁会幹部による拳銃使用殺人未遂事件等を検挙したほか、関係機関等と連携した各種取組を推進した結果、県内の暴力団勢力は10年連続で過去最少を記録している。「飲酒運転の撲滅」については、飲酒運転による交通事故発生件数は前年比で僅かに減少したものの、飲酒運転の検挙件数は前年比で増加しており、依然として悪質・危険な飲酒運転が敢行されている状況にある。「性犯罪の根絶」については、認知件数が増加し、検挙率は減少するなど、依然として厳しい状況にある。「ニセ電話詐欺対策の強化」については、その被害状況が3年連続で悪化し、昨年の被害額は約13億3,000万円に上るなど、極めて厳しい状況が続いている。「児童虐待・ストーカー・DV等への的確な対処」については、児童虐待の通告児童数、ストーカー・DV事案の相談等件数は、いずれも増加傾向で推移し、ストーカー加害者による重大事件が発生するなど、厳しい状況にある。「サイバー空間の脅威への的確な対処」については、サイバー犯罪の検挙件数が増加し、相談件数については統計方法の変更もあり減少しているものの、フィッシングによる個人情報窃取事案や企業を狙ったサイバー攻撃の発生が懸念されるなど、その脅威は極めて深刻な状況にある。「重要凶悪事件の徹底検挙」については、殺人・強盗等の検挙率は高水準で推移し、昨年中における3件の捜査本部設置事件は全て検挙している。「薬物事犯対策の強化」については、検挙人員が前年比で増加し、特に大麻検挙者は前年比で129人と大幅に増加している

ほか、若年層を中心とした大麻の乱用拡大が懸念される状況にある。「子供・高齢者等の交通事故の抑止」については、交通事故発生件数、死者数ともに増加し、特に、死者数については103人、前年比で28人増加と近年にない急増ぶりであったほか、高齢者関連事故の増加も顕著であった。「テロの未然防止と災害対策の強化」については、警護対象者の安全確保に万全を期すとともに、「みどりの愛護」のつどい開催に伴う警備を始め、各種警衛・警備を完遂した。「社会の変化に適応する警察基盤の強化」については、県下の治安情勢に的確に対処するとともに、県民の利便性の向上のため、警察署の音声応答転送装置の導入や行政手続のオンライン申請環境の拡大を行った。本年も各種治安課題への迅速的確な対応はもとより、各種事件・事故の未然防止や早期検挙等を推進し、県民の安全・安心の確保に努めていく。」旨の報告があった。

公安委員から「刑法犯の検挙率が減少しているのは、認知件数の増加に対して検挙が追いついていないということか。」旨の発言があり、警察本部から「令和5年中の検挙件数は前年比で増加しているものの、認知件数の増加に追いついていないために、検挙率は減少したものである。」旨の説明があった。

公安委員から「ニセ電話詐欺対策について、令和5年中の取組結果として固定電話通信事業者との協定締結による電話機対策が挙げられているが、固定電話の設置自体は減っているのか。」旨の発言があり、警察本部から「近年の携帯電話の普及状況を踏まえれば、固定電話の設置世帯数は減少していると思われる。ただし、65歳以上の被害者のうち、欺罔手段に用いられたツールの約7割が固定電話であることから、電話機対策を推進している。」旨の説明があった。

公安委員から「こうして経年の数値を並べてみると、ここ数年右肩上がりが増加している児童相談所への通告児童数や大麻検挙者数など、県警察が力を入れていく課題が見えてくる。また、ニセ電話詐欺の被害額も深刻な状況にあるが、ピーク時の平成27年以降、被害が減少した要因は何か。」旨の発言があり、警察本部から「平成27年のピークから、被害が減少した要因は、様々な要因が考えられるが、その要因の一つとして、金融機関が、ATMの振込の利用を制限するなどの各種対策をとったことが功を奏したと考えられる。」、「ニセ電話詐欺の手口は様々あり、その手口によって被害額の多寡も異なる。認知件数の増減だけでなく、手口の変遷等によっても被害額が増減する可能性も考えられる。また、対策としては、詐欺を疑い、まずは家族等の身近な人に相談していただくことが大

切であると考えている。」旨の説明があった。

公安委員から「飲酒運転検挙件数の増加も懸念される。」旨の発言があり、警察本部から「昨年の飲酒運転検挙件数は1,536件であり、コロナ禍前の数値を上回っている状況にある。」旨の説明があった。

公安委員から「昨年の交通事故の発生件数、死者数はともに増加し、その中でも高齢者が占める割合が高いということで、これからますます高齢者が増加していくことを考えれば、今年も何らかの対策を講じていくことが求められる。」旨の発言があり、警察本部から「昨年の交通事故の特徴として、死者の約6割を高齢者が占めているほか、高齢運転者による事故で亡くなった方が増加したことが挙げられる。今年、コロナ禍では開催の難しかったシルバー・セーフティ・ドライビングスクールや講習等に取り組み、安全運転や無理な道路横断の防止を呼び掛けることで、高齢者の交通事故防止を図ることとしている。」旨の説明があった。

公安委員から「各種数値が改善するよう取り組んでもらいたい。」旨の発言があった。

3 北九州市門司区における傷害致死事件の発生及び被疑者の逮捕について

(刑事部)

警察本部から「門司警察署及び捜査第一課は、令和5年12月31日、被害者の実家等において、被害者を複数回殴打する等の暴行を加え、外傷性脳障害により死亡させた傷害致死事件について、1月3日、直方市居住の警察官を逮捕した。」旨の報告があった。

警察本部から「本県警察官が、重大な犯罪で逮捕されたことについては、大変重く受け止めており、職員の処分については、所要の捜査等により事実関係を明らかにし、厳正に対処する。県警察においては、逮捕直後に緊急の本部長通達を發出し、1月6日には臨時の警察署長会議を開催した。同会議の中では、職員一人一人が自らの職務に精勤し、目に見える成果を挙げ、県民の皆様からの信頼回復に努めるとともに、高い使命感、倫理観をかん養する取組を推進するほか、双方向のコミュニケーションを確保し、温かみのある職場環境づくりや士気の高揚を図るよう指示したところである。今後は、改めて規律を厳正に保持し、組織を挙げて非違事案防止に努めていく。」旨の報告があった。

公安委員から「全容解明をお願いする。」旨の発言があった。

4 令和5年12月末における福岡県の暴力団勢力について

(暴力団対策部)

警察本部から「令和5年末における県内の暴力団勢力は約120組織であり、暴力団構成員等の概数で見ると、暴力団構成員は前年から70人減少して690人、準構成員等を合わせた勢力は前年から180人減少して1,080人となっている。暴力団構成員については、平成19年のピーク時と比較して約3分の1となるなど減少が顕著となっているほか、暴力団勢力については、16年連続で減少し、10年連続で過去最少を記録している。」旨の発言があった。

公安委員から「暴力団構成員が高齢化している点も踏まえ、若者の加入を阻止し、このまま減少傾向を維持してもらいたい。」旨の発言があり、警察本部から「暴力団勢力の減少に向けた諸対策を強力に推進していく。」旨の説明があった。

公安委員から「組織の勢力という観点でいえば、匿名・流動型犯罪グループなどが暴力団を上回っていくのではないかとということも懸念される。その点については、今後どのような対策を講じていくのか。」旨の発言があり、警察本部から「まずは実態解明をしっかりと行った上で、取締り等も進めていく。暴力団が匿名・流動型犯罪グループをうまく利用しながら資金を獲得しているような実態もあることから、暴力団対策を推進する上でも、匿名・流動型犯罪グループの実態解明等は重要な課題と考えている。」旨の説明があった。

5 警察職員の特別派遣について

(警備部)

警察本部から「令和6年能登半島地震に伴う災害警備活動に従事するため、1月4日から9日まで広域緊急援助隊等約80人を派遣し、1月7日から11日までの予定で広域緊急援助隊等約80人を、1月8日から11日までの予定でヘリコプター1機を派遣中である。主な活動事例として、珠洲市において倒壊家屋から90代女性を救出している。現地では、未だ安否不明となっている方が多く、災害警備活動は長期化の様相を呈していることから、今回の状況を踏まえ、今後の派遣に備えることとしている。」旨の説明があった。

公安委員から「大変危険な状況の中、現地に派遣されている隊員の活動に対し、本当に頭が下がる思いである。ヘリコプターはどこを拠点に活動しているのか。」

旨の発言があり、警察本部から「ヘリコプターは富山空港を拠点に活動している。」旨の説明があった。

公安委員から「隊員はどこで寝泊まりしているのか。」旨の発言があり、警察本部から「隊員らは車中泊をしている。」旨の説明があった。

公安委員から「生存者の救助がクローズアップされているが、依然として安否不明者や要救助者等は多いため、引き続き対応をお願いします。」旨の発言があった。